

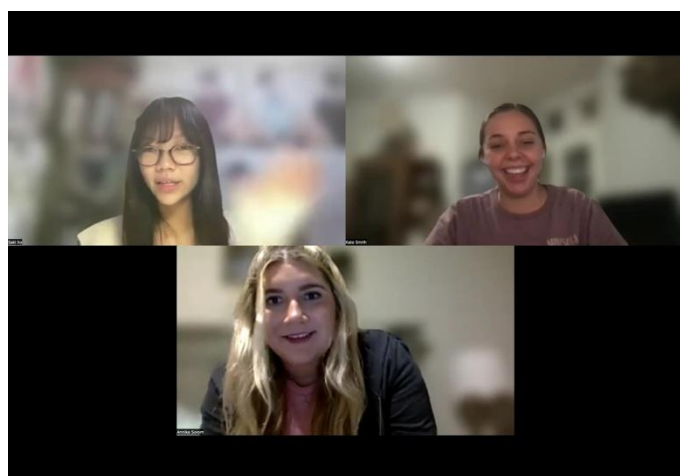
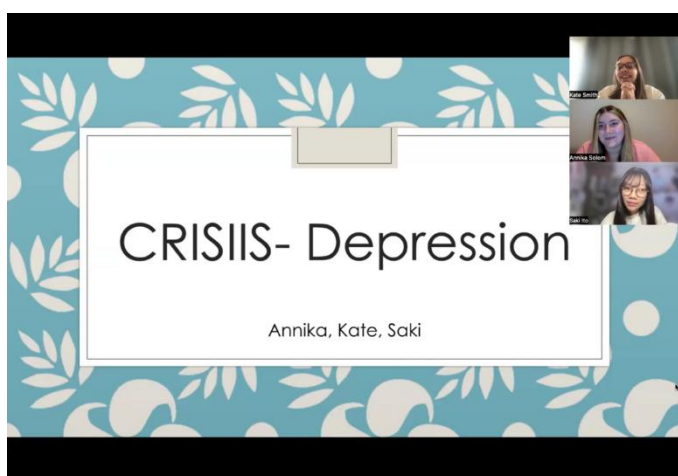
2025 年度 CRISIIS プログラム参加報告書

12月までこのCRISIISに参加させていただいた。3ヶ月間で40分のミーティングを計4回行い、それぞれの「危機」の経験をテーマに話し合い、最終的に全員で一つのプレゼンテーションを完成させた。私たちのグループでは「うつ病」をテーマとして設定し、それに関する両国の状況や支援制度、看護の違いについて調査しプレゼンテーションを作成した。

このプログラムでは、英語力はもちろん、他国の人とコミュニケーションを取る力も伸ばすことができた。私は英語が得意ではないため約40分のミーティングの全てを英語で聞き、自分の意見を話すということは決して簡単ではなかったし、出来る自信はなかった。しかし、メンバーと話してみたいという気持ちで相手の話に耳を傾け、言葉を発してみることで、拙い英語でも徐々に自分の言葉で意見を話すことができるようになっていった。メンバーになったアメリカの学生も、私に問いかける時には話す速さを遅くしたり、場合によっては質問を文章にしてチャットに送ってくれたりなど、私とのコミュニケーションが取りやすいよう方法を考えてくれた。

振り返ってみて、このような言語の壁を超えたコミュニケーションは、相手へのリスペクトと、話したい、聞きたいという相手への関心があったからこそできたのではないかと考えた。言語や時差というようなコミュニケーション上の困難がある状況でも、相手にリスペクトや関心を持つことが、様々な人とのコミュニケーションを楽しむことができることに繋がると学べた。また、日本とアメリカの制度の違いや健康課題についても学ぶことができた。アメリカでもうつ病が重大な健康課題として上がっていることや、アメリカのホットラインの多さなど、初めて知ることが多くあった。

CRISIISを通じて、他国の学生とオンラインでミーティングを開き、ディスカッションするという貴重な経験をさせていただくことができた。また日本とアメリカの医療や制度の違いにも触れることができ、このことについて今後もさらに学びたいと考えている。今回、このような学びの機会を作ってくださった大学の先生方、またマンケート校の先生方、プログラムメンバーに心から感謝する。



2年生 伊藤 咲希